

防災意識とハザードマップ Hazard map for the better awareness of disaster

大西 宏治^{1*}
OHNISHI, Koji^{1*}

¹ 富山大学
¹University of Toyama

現在、全国の自治体では様々なハザードマップが作成され、閲覧できるようになっていたり、住民に配布されている。しかしながら、東日本大震災による市民の防災意識の高まりにも関わらず、これらの地図類の活用が市民レベルで十分に進んでいない。特に自分の暮らす土地の災害危険度を客観的にとらえようとする意識はあまりそだっていない。居住地の災害の危険性を客観的に把握できることが、災害時の非難行動につながるため、その意識をどのように高めるかが課題である。

そこで、住民のハザードマップの認知度や防災意識に関するアンケート調査、インタビュー調査を実施して防災意識の構造を明らかにし、次にそれらを改善するための地図活用方法を検討した。事例地域は神通川と支流の井田川に挟まれた地域に住宅街が開発された富山市神明小学校区である。

住民の多くは防災に関心はあり、防災訓練にも以前よりも積極的に取り組むようになっているが、自分の暮らす土地の災害危険性に関する意識が希薄であることがわかった。この状況を改善するには、防災訓練などで自分の暮らす土地の災害危険性を具体的に示すことができる地図の活用が考えられる。たとえば、旧版地形図を活用して土地利用の履歴を確認する活動やハザードマップを活用するDIGなどが考えられる。これらの地図活用を効果的に実施することで、住民の防災意識を向上させることが期待できる。

キーワード: 防災意識, ハザードマップ, 地形図, DIG
Keywords: hazard perception, hazard map, topographical map, DIG